



ごあいさつ

当団は2015年11月、第28回荻窪音楽祭 第15回荻窪法人会チャリティ・クラシックコンサート出演メンバーを中心に設立されたアマチュアオーケストラです。

歴史の浅い団体ではありますが、東高円寺の公共施設を練習場所に、団員66名（2017年11月1日時点）で楽しく活動しています。「聴いてくださる方を巻き込む楽しい企画で地域貢献を」をコンセプトに活動しております。

第4回定期演奏会では、副題「リラの花咲くラフマニノフ」としてあります。ロシア音楽ど真ん中、荘重で陰鬱な始まりからリラの花が開花するような曲の進行。設立から3年、当団の節目の演奏会として花言葉「友情」をテーマに大曲に臨みます。演目は当団顧問でもあるピアニスト吉岡綾子さんによるピアノ協奏曲第2番、そしてメインの交響曲第2番、ぜひお越しください。



指揮者

末永 隆一 Ryuichi Suenaga

宮城県出身。指揮者、作曲家。指揮法を小松一彦氏に、音楽理論を高原博文、増田宏三両氏に、作曲を田中利光氏に師事する。1975年、作曲家同人グループ「層」に参加（弦楽とテープのためのポエム）を発表し絶賛を博す。1977年〈弦楽のための三つの舞曲〉（音楽之友社）を発表。同年、セルジュ・チェルビダツクの指揮法ゼミナールを受講する。1981年、東京工業大学の依頼により百周年記念記録映画に音楽監督として関わり、そのとき発表した記念行進曲〈燕よ舞い上がれ〉は絶賛を博し、以来同大学の式典で毎年演奏されている。2000年、2005年のかわさき市民「第九」演奏会の指揮では高い評価を得た。2001年、みやざき国体実行委員会の依頼によりミュージカル〈斎太郎物語〉を作曲。2006年、NPO法人東京オペラ協会30周年記念事業オペラ〈ザビエル〉を指揮する。また同年、第1回かわさき市「みんなでコンサート」を指揮する。2008年、合唱団「夢十夜」・オーケストラ「夢十夜」の音楽監督に就任し、〈レクイエム〉を中心とした合唱とオーケストラ作品の演奏活動を始める。現在、川崎市を中心に活動する「モーツァルトの音楽を楽しむ会」理事長、プロフェッショナルズオーケストラ音楽監督・常任指揮者、エテルナストリングス常任指揮者として活動中。その指導は楽譜への深い洞察力と演奏解釈を基幹としており、大変定評がある。主な作品には、管弦楽曲〈アラ・マーチ〉、バス・トロンボーン五重奏〈奇妙な踊り、そしてセレナーデ〉、吹奏楽とバス・トロンボーンのための〈ラブソング〉、トロンボーン四重奏曲〈フィクルネス〉などがある。



ピアノ独奏

吉岡 綾子 Ayako Yoshioka

国立音楽大学器楽学科ピアノ専攻卒。ドイツ・マンハイム音楽大学大学院卒ソリストコース、並びにリート・デュオ専攻。2002年国際ウィーン・ピアニストコンクール優勝。ウィーン市長賞受賞。2003年東京、ウィーン・ロブコヴィッツ宮殿にてデビューリサイタルを開催。2003年ドイツ・マンハイムライオンズクラブ主催のコンクールにて優勝、奨学金を授与される。2006年にバーデン・バーデンフィルハーモニーとバッハのピアノ協奏曲を共演。独地元新聞紙上で「卓越したテクニックが煌めくピアニスト」と評される。同年夏、ドイツ国家演奏家資格を取得。並びに、リート・デュオを最優秀の成績で修了。在独中は特にバッハの音楽を中心に学び、チェンバロ、フォルテ・ピアノの演奏も積極的に行う。その他、ジャパンチェンバーフィルハーモニーとの共演、ラ・フォルジュルネ「熱狂の日」音楽祭2008への出演、日本フィルメンバーとの室内楽共演など、直近ではチェコ・フィルハーモニー管弦楽団の首席チェロ奏者であるフランティシェク・ホストとブラームス・アーベントにおいて共演する。また日本国内各地の小学校、病院での演奏にも力を注いでいる。これまでにピアノを下保俊子、大村立子、吉田たまき、今井顕、佐藤俊、星田知子、尾池真生子、加藤一郎、パウル・ダン、A.ヤシンスキ、H.ライグラフに師事。チェンバロをK.ナイキスト、さらにリートゲシュタルトウルクをU.アイゼンローアーに師事。荻窪祝祭管弦楽団顧問、愛猫家でもある。



【団員募集】

荻窪祝祭管弦楽団では一緒に演奏する仲間を募集しています。詳しくは当団ホームページをご確認ください。ご応募をお待ちしております。団員募集のお問い合わせはこちら ▶▶▶ Tel 090-4374-6318 (中村) Email ofofooff@gmail.com URL <http://www.ofo.tokyo/>

